

## 【授業科目】病理学

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
澤田 浩秀	1年次前期	必修	1	15	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>病理学は、疾患の原因（病因）とその成り立ち（発生機序）について学ぶ学問である。病理学総論として、変性・細胞死・萎縮といった細胞障害、化生・再生などの組織修復、代謝異常（糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝）、循環障害、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍（良性腫瘍、悪性腫瘍）、染色体異常、および遺伝性疾患などについて学ぶ。本科目では、疾患に関する病因および病態について、形態学的所見と機能異常との関連を理解できることが目標である。また、本科目の履修には、解剖組織学、生理学、免疫学、微生物学、生化学などの基礎的知識を基盤とし、学んだ内容は臨床病態学などの科目へ結びつけるが必要になる。それに加えて、診断に至るに必要な幅広い知識の修得も必要とする。*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる」および⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>・病理学では解剖学の知識を基に様々な疾患における臓器・組織の変化を学び、病気の本態を理解し、細胞・組織の障害による基本的変化の理解ができる。病気の診断を確定するための検査などについて総合的に理解できるようにしていく。具体的には身体を構成している各器官・臓器・組織が病的状態において、その形態、機能や代謝がどのように変化していくかを学ぶこと。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>病理学とは何か（病理学の意義）を理解しておく講義ノートを復習すること 1回の講義につき、30分程度の予習および90分程度の復習を行うこと。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 病理学とは何か 病理学の領域 病理診断 第2回 細胞・組織の障害と修復 適応・変性、再生、化生、萎縮、肥大、過形成 第3回 代謝異常、循環障害 第4回 炎症、感染症、免疫異常 第5回 腫瘍、先天異常 第6回 各論Ⅰ：循環器系、呼吸器系、消化器系①上部消化管 第7回 各論Ⅱ：消化器系②下部消化管、肝臓、胆道、膵臓 第8回 各論Ⅲ：泌尿器系、生殖器系、内分泌系、その他</p>						全て 澤田	
評価方法 評価基準	筆記試験 100%							
教科書	<p>新訂版 クイックマスター病理学 第2版 堤寛著 (サイオ出版) 最新臨床検査学講座 病理学・病理検査学 松原修著 (医歯薬出版)</p>			参考書等		<p>標準病理学 第6版 (医学書院) ロビンス基礎病理学 原書10版 (丸善出版)</p>		
学生へのメッセージ	<p>本科目は開講までに解剖学や生理学の基礎的な内容について復習しておくこと。また病理学は臨床検査学において必須であるため必ず予習復習をすること。</p>							